



# 美しい街並と、災害に強い街づくり

## 電線類地中化の効果



## 次世代型電線共同溝システムの概要・特長

- 電力低圧ケーブル・通信系ケーブル類を小型トラフ内に集約しコンパクト化を図り、歩道幅2.5m以下の狭幅員歩道や歩道のない車道での電線地中化に適用します。
- 電力高圧ケーブルは樹脂管に収容し、小型トラフの下に布設します。
- 共用FA方式を用い情報通信・放送系の引込みケーブルを共用FA管1管に集約、また情報通信・放送系の幹線ケーブルをボディ管1管に集約する事により、従来型の管路部に比べコンパクト化を図ります。
- トラフ系ケーブルおよび共用FA系ケーブルの接続や分岐作業を路上から行うことにより、特殊部のコンパクト化、浅層化を図ります。
- 地上機器側の内空高さを浅くして埋設物の移設を軽減したり、変圧器等を照明柱に添架することにより歩道の有効空間を確保します。
- 従来は参画事業者ごとに設けていた予備管を、小型トラフおよびボディ管に収容する事で管に共通予備管を設けることで、管路条数の低減を図ります。
- 管路の道路横断や、電力ケーブルと通信系ケーブルの同一箇所での収容・接続時には、従来型の特殊部を使用します。
- 構造がコンパクト化されたことにより、比較的需要密度の低い地域や商店街での電線地中化に適用します。



## 電線共同溝による地中化方式の選定

電線共同溝による地中化選定にあたっては、道路管理者、電線管理者等との協議、地中化路線の状況の調査を行い、電力ケーブルおよび情報通信・放送系ケーブルの配線計画図を作成し、設備構成等について十分検討の上、地中化方式を選定してください。

- 電線共同溝による地中化方式 ▶
- ① 1管1条方式(従来型方式)
  - ② トラフ・共用FA方式(次世代型方式)
  - ③ ①と②の混在方式

地中化方式の選定にあたっては、入溝する各種ケーブルの径および条数、地上機器の設置スペースの有無、公園等沿道の公共用地の活用等を考慮した上で、柔軟に対応することが肝要です。